公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

茨城県支部会報

第 8 号
2016 年 8 月

URL： http://www.engineer.or.jp/c_shibu/ibaraki/
E-mail： ibaraki@engineer.or.jp

内容

・2016 年度年次大会 …… 1
支部長挨拶、来賓挨拶 …… 1
2015 年度活動報告、2016 年度活動計画 …… 2
・講演会・交流会開催 …… 3
・2015 年度技術士合格者祝賀会・講演会 …… 4

2016 年度年次大会

2016 年 6 月 26 日(日)14 時 30 分より、ひたちなか市ワークプラザ勝田において、茨城県支部の第 5 回年次大会が多数の来賓のご出席をいただき開催された。

支部長挨拶

茨城県支部　支部長　　本田永信

本日は年次大会に出席いただきありがとうございます。また、ご来賓の方々には日曜日にもかかわらずご列席賜り誠にありがとうございます。

今年は 2018 年に茨城県で開催される世界湖沼会議に向け、環境をテーマに講演を行いますのでよろしくお願いいたします。関東地方の水がめの貯水率が大幅に低下している状況で、先日少し雨が降りました。少しでも良くなると良いと思います。西の方では豪雨といわれており、天気もままにならないものです。

この金曜日にはイギリスの EU 離脱国民投票の結果が決まり、日経平均株価はリーマン・ショック時を超える-1,286 円の下げ幅で¥15,000 を割り込む終値となりました。変化は世の常と申しますが、このような変動にも対応していかなければならないと思っています。

本田支部長

茨城県支部もスタートして 5 年目に入ります。この一年、年次大会・講演会・交流会、新年講演会・交流会、一次・二次試験合格者祝賀会・講演会の開催、土浦市のおもしろ科学実験教室に参加、「茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏祭り 2015」および「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」に出展、今年度は茨城県のおもしろ理科先生に 12 講座登録など行っています。

中小企業関係では工業技術センターの研究成果発表会のコーナーでの紹介展示や、中小企業団体中央会と連携した技術面での支援活動など行っています。CPD ミニ講座開催、テーマ毎の CPD 啓発講座で見学会の開催、JABEE 関係者への講演実施、茨城県支部ホームページの見直し刷新、支部会報の発行などを行いました。

また、昨年度は中小企業小委員会、理科教育支援小委員会に続き修習技術者支援小委員会を設けました。着実に活動の幅を広げていきます。

来年に入ると役員選挙があります。役員定員 20 名に対し 4 名欠員の状態で運営しています。現役の方もお忙しいと思いますが月一回、委員会・役員会を実施しています。是非、委員会に参加いただき、役員に立候補をお願いします。今後とも、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

来賓挨拶

本年次大会には、関係官公庁、関連機関をはじめ、協賛企業、日本技術士会統括本部など多くの方々をご来賓としてお迎えしました。

ご来賓を代表して次のお二人からご挨拶をいただきました。

茨城県中小企業団体中央会　専務理事　岩間伸博様

(公財) 日立地区産業支援センター　センター長　大原隆史様

岩間専務理事

大原センター長

年次大会概要

年次大会では、本田支部長より 2015 年度の事業報告及び 2016 年度の事業計画が報告された。

１．2015 年度事業報告

(1) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

① 茨城県支部会員 44 名が参加して年次大会を開催した。
② 支部役員会を毎月開催した。
③ 総務、広報、業務・地域貢献、県南委員会の 5 委員会及び各委員会の中に設置された小委員会を開催し、支部活動を推進した。なお、修習技術者支援小委員会を研修委員会の下に設置した。
④ 総務委員会では、支部役員会や年次大会の開催事務、支部会計等を行った。
⑤ 広報委員会では、行事案内、活動状況報告、支部会報などを支部ホームページに掲載した。
⑥ 業務・地域貢献委員会では、茨城県商工労働部産業技術課との意見交換会（2 月 10 日）および茨城県工業技術センターの研究成果発表会へのブース出展(2 月 17 日)を実施した。中小企業支援小委員会においては、コンサルタント橋渡し事業やマッチング事業を調査し，これら事業への技術士の参画への試行を開始した。理科教育支援小委員会においては「霞ケ浦環境科学センター夏祭り」（8 月 30 日）、「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」（10 月 31 日～11 月 1 日）に出展した。
⑦ 研修委員会では、継続的に CPD 行事を開催するとともに、修習技術者支援小委員会を新設し、修習技術者などへの支援を開始した。
⑧ 県南委員会は、各委員会と連携をとりながら県南地域密着形の活動を行った。また、土浦市図書館からの要請を受け、「おもしろ科学実験教室」（8 月 4 日及び 7 日）に講師を派遣した。

(2) 行事

① 年次大会での「講演会・交流会」、「新年講演会・交流会」（1 月 23 日）を開催した。
② 「技術士合格者祝賀会・講演会」（4 月 4 日）を開催した。
③ CPD ミニ講座として「ザ・技術士」を 7 回、CPD 啓発講座として見学会を 2 回開催した。

盛会の年次大会

(3) その他

① 常総市水害の被災者相談「各種専門家による防災なんでも相談コーナー」(11 月 12 日～12 月 13 日)に相談員を派遣した。
② 茨城県工業技術センター主催の「研究成果発表会」（2 月 17 日）に出展し、日本技術士会の紹介及び技術相談を実施した。
③ 茨城大学工学部の要請で「技術士活動紹介」（1 月 29 日）を行った。
④ 茨城県中小企業団体中央会と連携して中小企業の技術面に関する支援を行った。

２．2016 年度事業計画

茨城県支部は統括本部の事業計画に沿って、特に地域的な会員活動を一層活発化するよう取り組んでいる。会員技術士の力を結集して、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、国、県、各市町村、関連諸機関、県内企業・団体および県民に対する科学技術の向上と県民経済の発展に寄与してきた。

2016 年度は、これまでの実績を踏まえ、事業を着実に進展させる。

(1) 技術士および技術者の倫理の啓発

「技術士倫理綱領」の理念・主旨を会員技術士へ浸透させるため、講演会、展示会などの機会を捉え技術者倫理の啓発に努める。

(2) 技術士の資質向上

技術士法では、技術士の資質の向上を責務としている。日本技術士会は資格取得後の継続的研鑽（CPD）を基本事業の一つとしており、茨城県支部では CPD 事業を通じて、資格取得後の技術士の資質向上を図る。

(3) 技術士制度の普及・啓発

技術士制度の普及・啓発のために、県及び関連機関、団体などへの技術士の活用促進を働きかけるとともに、技術士制度に関する広報活動を行う。また、開催する講演会などを公開し、技術士制度の普及を図る。

(4) 技術士業務の開発及び活用促進

技術士としての業務の範囲拡大・普及を目的に、県及び関連機関、団体などへの働きかけを「中小企業支援小委員会」を中心に推進する。

(5) 技術系人材の育成

技術士資格取得に向けた修習技術者（技術士第一次試験合格者及び JABEE 認定課程修了者）の修習活動を支援する事業内容の検討と、大学などの教育機関に対する技術士活動の紹介など技術士制度の普及啓発を図る。

(6) 地域社会貢献活動

技術士としての専門技術を生かし、地域社会や青少年に向けた科学技術に関するコミュニケーションの促進を行うなど、内閣府策定の「科学技術基本計画」に沿った活動を理科教育支援小委員会が中心に推進する。

地域社会における多種多様な技術的課題に対し、その地域に即した支援活動を推進する。

(7) 情報発信・連携の強化

会員並びに地域社会に向けた情報発信は茨城県支部の活動にとって重要であり、タイムリーな情報発信とその内容の充実を図る。

(8) 組織運営の強化

茨城県支部組織の充実と円滑な運営を図る。

講演会　年次大会に引き続き、講演会が実施された。

◆ 講演１　「途上国地球温暖化対策支援プロジェクトについて」

芦ヶ原環境エネルギー開発企画　技術士（化学）　　芦ヶ原治之氏

我が国は、2015 年 4 月、国内の温室効果ガス削減目標について「2030 年度までに 13 年度比 26%減する」案を発表した。2015 年 12 月に COP21 パリ会議が開催され、我が国としての温室効果ガス削減目標達成に向けた一層の努力をしなければならない状況がクローズアップされている。その対策の一環として，国は二国間協定での途上国への支援活動にも力を入れている。平成 23 年度に環境省の募集した政策提言に「CO_2 削減法」を提言・応募し採択され、平成 25 年度と 26 年度に環境省のプロジェクト「アジアの低炭素社会実現のためのＪＣＭ（Joint Crediting Mechanism）大規模形成支援事業」に、エコアクション 21 の審査人として参加する機会があった。

講演される芦ヶ原治之氏

(1) 提言内容：我が国の省エネ技術のハードとソフトの組合を発展途上国に提供すると、効果の大きい CO_2 削減の支援ができる。

(2) 現地での活動内容：簡易型環境マネジメントシステムの途上国への導入支援と CO_2 削減効果のあがる設備導入等のアドバイスと支援ポテンシャルの把握。

(3) 結果：ベトナムのダナン市では行政の支援でエコアクションのシステムが動き始めるところまで確認できたこと、途上国側からは大いに喜ばれその手応えを感じることができた。

この地球温暖化防止支援プロジェクトは、支援される国から感謝される国際貢献の手法である。これは我が国の強みを活かせ、軍事に比べて極めて低コストであり、外交カードとして今後ももっと活用してゆくべきであること。また今回の経験を通じて感じたことは、本当の日本人の武器はある種の「思いやり」「道徳心」が強い事で、この優しさを基礎にして途上国などで誠実に業務に取り組めばビジネスチャンスも大いに広がると思われることである。

◆ 講演２　「日本と海外の湖沼環境問題　～世界湖沼会議に向けて～」

筑波大学生命環境系　教授　福島武彦氏

1995 年に引き続き 2018 年に茨城県で世界湖沼会議が開催予定であり、福島教授は、その国際会議の企画委員メンバーである。講演では霞ヶ浦の水質保全の歩み、国内や海外の湖沼環境問題および最新の湖沼環境解析技術について、各種データーを用いて紹介していただくとともに、世界湖沼会議に向けての方向性について話された。

霞ヶ浦の水環境には、流域での様々な生産活動が、水の再利用率や汚染蓄積性の高さと併せて改善を遅らせていること、また水量的には問題点が少ないが、水質的には湖沼への興味、親近性を失わせていることの問題がある。湖沼の水環境は、下流汚染蓄積型湖沼に見られる富栄養化、地球温暖化による貧酸素化及び欧米で見られる貧栄養化等が問題となっており、日本、インドネシア、ヨーロッパの湖沼を例に紹介された。アオコに代表される富栄養化の問題は、流域の農地食糧生産時の窒素およびリンの過剰投与、畜産糞尿及び住民の食の欧米化等に起因したリンの高濃度化及び蓄積窒素化によるもので、特に水の繰り返し利用により時間スケールの遅いサブシステムの影響が大きくなる。

講演される福島武彦氏

貧酸素化は、地球温暖化による湖沼表層水温上昇等により湖内循環低下に起因しており、比較的水深の深い湖沼で問題となっている。またヨーロッパの湖沼において、1980 年以降酸性化等によるリン濃度低下に伴い漁獲量が減少している。研究成果としてリモートセンシングを利用した湖沼環境解析事例を紹介された。これは、大気補正を行いつつ過去の保管されている通信衛星画像からアオコ分布の季節・経年変化や透明度の変化を予測するなどの湖沼の水質や生態系、流域情報監視技術として広く用いられてきている先進技術である。

最後に湖沼環境問題は、従来からの負荷削減対策による水質改善に加え、これからは透明度や低層酸素濃度基準導入に見られる湖沼環境保全が重要となってきており、ジオパークのような住民参加型の統合的湖沼流域管理が必要となってくることを示された。

交流会

年次大会、講演会に引き続き、恒例の交流会が場所を「遊々亭」に移し、佐藤副支部長の司会により賑やかに開催された。

ご講演をいただいた芦ヶ原治之氏、福島武彦氏のご参加を含め 40 名を越える参加で、講演者を中心に、議論を求める方々が輪になって賑やかに歓談されていた。

最後に岸副支部長の挨拶と一本締めで盛会裏に終了した。

盛会の交流会

2015 年度技術士合格者祝賀会・講演会

2016 年 4 月 2 日(土)、ひたちなか市商工会議所において、2015 年度技術士一次試験および二次試験合格者祝賀会が 47 名の参加者(内、新合格者 13 名)の出席を得て開催された。

多数の参加者による合格祝賀会

冒頭、本田支部長により茨城県支部の活動紹介が行われ、「霞ヶ浦環境科学センター夏祭り」、「青少年のための科学の祭典」等の行事や、CPD 講座・見学会など県支部活動への参加協力を呼びかけた。

次に小林守氏から一次試験合格者に向けて「修習技術者への案内」として今後の修習技術者に対する研修案内が紹介された。

引き続き(有)かにでん 代表取締役 技術士(建設部門)手島久氏が『形骸化 ～そのマニュアル表、それとも裏？～』と題して講演され、マニュアル（手順書・作業標準）があらゆるシーンで活用されている。「マニュアルは生き物である」ことに気付かない事が形骸化である。講演者自身が企業の顧問技術士として技術者倫理・行動原則に基づきマニュアルを検証し、最適化する手法を紹介された。

最後に、交流会が盛大に行われた。今年度の合格者の参加は昨年に比べ 1.4 倍で賑やかで、一人づつ、自己紹介とともに近況や専門領域の話、抱負などを話していただいた。

今年度は合格者の参加が多く、活発に意見・情報交換が行われ、また県支部の紹介や PR も十分に行うことができ、盛会裏に終了した。

講演される小林氏

講演される手島氏

新合格の方々を交えての交流会

編集後記

◆茨城県支部会報第 8 号では、2016 年度年次大会を中心に記載した。2015 年度の活動実績と 2016 年度の活動計画が報告された。地域社会への貢献活動や会員の CPD に資する活動など、多岐にわたる活動がされている。

◆理科教育支援小委員会が作られ、子どもたちの理科教育支援活動が始まった。将来を担う子どもたちに科学技術に対する興味を抱かせる重要な活動である。会員諸氏の積極的な参加を期待したい。

◆講演会は、我々技術士にとって、時宜を得た、示唆に富んだ内容のお話であった。紙面の都合で全てをお伝えできないのが残念である。 (Hm)

広報委員会：松本 宏(委員長)、石田 正浩、荻原 覚、堂本 隆

・情報提供は、E-mail：matsumoto_pe@net1.jway.ne.jp(松本)まで